

まえがき

「平成 21 年度 世界の食料需給の中長期的な見通しに関する研究 研究報告書」は、農林水産政策研究所で、平成 20 ～ 22 年度にかけて実施する同プロジェクト研究の 2 年度目にあたる 21 年度の研究成果報告を刊行するものである。

バイオ燃料向け農産物需要の拡大、干ばつなど異常気象の頻発などにより、近年、世界の食料需給は不安定さを増している。また、将来的には、ブラジル、ロシア、インド、中国といった新興経済国の経済成長の影響も大きくなっていくものと考えられる。このような世界の食料需給をめぐる状況の変化に対して、食料輸入大国である我が国が的確に対応し、国民への食料の安定供給を引き続き確保していくことが重要になっている。

このような状況を踏まえ、本プロジェクトでは、食料をめぐる動向や世界の食料需給の見通しについて、途上国も含め、できる限り客観的な情報を収集し、必要な分析を行うこととし、具体的には、

- ① 世界の食料需給の中長期的な見通しを行うための独自手法の開発
 - ② 研究ネットワークを活用した各国情報の収集・分析
 - ③ バイオ燃料原料用農産物の需要拡大が食料需給に及ぼす影響分析
- の 3 つのテーマについて研究に取り組んでいる。

①では、食料の輸入大国である我が国の立場を踏まえ、世界の食料需給の中長期的な見通しを行うため、20 年度に開発した「世界食料需給モデル」について、バイオエタノールの需給部分を内生化する等の改良を行い、これに基づいて世界の食料需給の中長期的な見通しを実施した。

②では、20 年度に引き続き、世界各国の食料消費、農業生産、人口動態、経済成長、農地、水資源、品種改良等の食料需給の分析に必要な情報・研究論文等を、各国の大学・研究機関との国際的な研究ネットワーク等を活用して収集し、行政サイドが有する情報と合わせて世界の食料需給の中長期的な見通しの実施に必要な分析を実施した。特に 21 年度は、世界の食料需給を見通すに当たって、各国情報として重要と思われる食料の供給構造、消費構造と其中長期的な変化の見通しに焦点を当てて分析を行った。

③では、「世界とうもろこし需給予測モデル」を用い、「バイオ燃料原料用農産物の需要拡大が食料需給に及ぼす影響分析」について、最新のデータに基づき、定量試算を行った。また、米国がバイオディーゼル政策の変更により、需要量が増加する場合、国際大豆需給等に与える影響について「世界大豆・大豆製品需給予測モデル」により分析した。

こうした研究成果については、プレスリリースや「平成 21 年度農業白書」への掲載、「海外食料需給レポート 2009」への掲載といった形で、広く国民に対して情報提供され、また、世界の食料事情の変化に対応したわが国の新たな食料戦略の検討にも活用されているところである。

平成 23 年 3 月

農林水産政策研究所